

令和2年2月25日

軽井沢町議会
議長 佐藤 敏明 様

遠山 隆雄

研修報告書

1 研修日時・場所

自治体向けICT推進セミナー(議員自治体職員限定)

議会ICT化と働き方改革

令和2年1月30日(木) 13:00~16:00

TKP品川カンファレンスセンター会議室

(東京都港区高輪3-26-33)

2 講師

・先進自治体による特別講演

埼玉県飯能市議会議員 野口 和彦 氏

・パートナー企業特別講演

NTTドコモ法人ビジネス戦略部営業企画担当 鈴木 弘道

・議会ICT化と働き方改革

東京インタープレイ株営業部 石井 知成

3 研修内容

飯能市議会 議会のICT化について 13:10~14:05

ICT化のキッカケは東日本大震災で資源を大切にす。当たり前の原点を見直す。という事で行政・議会とも同時に考え電気代・ゴミ・紙の削減を目標にスタートした。

議会では議会改革検討会を設置し検討してきた。

合意形成のポイントは全議員参加対象とし参加しなかった場合は文句なし!(いわない)

①

議会の検討内容 情報通信技術(ICT)活用による議会改革の推進

① 全員協議会ペーパーレス化(LAN) 執行部の準備が楽になった。

② 議会内の情報伝達(メール)

議員 ⇄ 事務局 各種文書送信

③ 危機管理上の緊急連絡(メール)

災害時の緊急通信

- ④ 政務調査活動（インターネット） 各種検索
先進事例調査など
- ⑤ 各種資料の閲覧（LAN）
各種計画等、既存電子データを利用
- ⑥ 議場への持ち込みを可能にする

飯能市議会の採用企業

- ・システム SideBooks クラウド本棚 東京インタープレイス株
- ・機器 iPad Apple （当初は富士通のアロウズを利用）
- ・通信 NTT ドコモ 議員が利用 事務局・執行部はWi-Fiを利用

議会の費用

- (1) 第2世代(平成28年度)導入費用合計:約270万円
 - ①初期費用約17万円
タブレット端末等設定費用
 - ②維持費用約253万円
通信費・クラウド使用料等約233万円
セキュリティソフト・ネットワーク保守委託約20万円
- (2) 1台当たり通信費:年額45,600円、月額3,800円
- (3) 費用負担(約45,600円の内訳)
 - 公費 5/6 約38,000円
 - 自己負担 1/6 約7,600円
- (4) 端末機器費用:実質負担額0円

タブレット導入の効果

- (1) 費用削減効果額 年間約210万円
 - ①全員協議会資料削減額 約24万円
 - ②本会議議案冊子廃止:印刷製本費約186万円
- (2) 紙使用料削減枚数 年間約10万枚
 - ①全員協議会資料 約24,000枚
 - ②本会議議案冊子分 約74,400枚
- (3) 上記以外の導入効果
 - ①環境負荷低減
 - ②経費節減、事務改善
 - ③情報伝達の迅速化
 - ④政務調査活動の充実

⑤危機管理対応の向上

導入後の運用状況

- (1) 全員協議会等各種議会会議のペーパーレス化
- (2) 本会議一般質問時での効果的な活用
- (3) 議会内情報伝達
議員 ⇄ 事務局 各種文書メール送信（グーグルのアカウントをとっている）
カレンダー機能によりスケジュールの共有（クーグルが同期できる）
- (4) 災害時の活用（議員が報告し事務局がまとめる）
- (5) 議案書・予算書等の閲覧
- (6) 会議中の情報収集 課題となっている
- (7) 各種書類の整理・保存
（一般質問時のモニターへ写すのも自分で行っている）

利用のルール化

- (1) 飯能市議会情報端末機使用基準
使用制限、禁止・遵守事項、セキュリティ対策、飯能市議会 IT 会議設置等、
必要な事項を規定
- (2) 飯能市議会情報端末機使用範囲等
使用対象会議、ペーパーレス化対象会議等を規定
- (3) 飯能市議会 IT 会議基準 詳しい人に委員長になってもらった。
端末機紛失・情報漏洩等重大な問題、アプリケーションソフト、有効活用、問題の改善協議等を規定

今後の検討内容

- ・タブレットでの議決システムの導入

5G時代のビジネス協創に向けた取り組み 14:15～15:05

いよいよ定着するRPA自治体での活用

RPAとは

今利用しているシステムをそのままに

パソコン上の作業を代行してくれるソリューション

Robotic（ロボット）

Process（パソコン内の業務プロセス）

Automation（自動化）

■R P Aは、ルールエンジン・機械学習・人工知能などを活用し、ホワイトカラー業務を効率化・自動化する仕組み

■仮想知的労働者 (Digital Labor) とも呼ばれている

※労働者として定着しつつある

R P Aに関する報道の一部

- ・メガバンクや保険会社などがいち早く導入、稼働削減の切り札として推進
- ・働き方改革への取り組みが注目される「電通」もR P Aの本格導入を発表
- ・R P A市場は2017年度下期からさまざまな業界に普及開始
- ・2017年度の調査では、導入企業の97%が業務の半減に成功 (?)

地方公共団体がR P A導入で目指す姿

職員数はここ数年横ばいしているものの住民サービスの品質の向上を実現するため、業務の効率化・最適化が必要となっている。

そこで職員の負荷軽減を図りながら人にしかできない業務により注力し、定型業務をロボットにしてもらい負担を減らすことを目的とする。

R P Aが得意とする業務

R P Aはあくまで“パソコン内部の作業”を自動化するもの
紙など外部データの場合はスマホやO C Rとの組合せで実現

R P Aは“魔法の杖”ではない

- ・人間がやった方がいい仕事も多い
- ・R P A賀やった業務の責任もとる必要がある
- ・自動化に向けた下ごしらえにも時間はかかる
- ・R P Aのみでは自動化・最適化しきれない業務が多く存在

議会 I C T化と働き方改革 15:10~16:00

議会の I C T化について

タブレット導入の概要

- ・S i d e B o o k sクラウド本棚の導入件数は、2013年度に逗子市議会が導入後2019年末現在230自治体で採用されている。
- ・導入自治体における行政と議会の連携状況は議会が先行(58%)連携導入(40%)行政先行(2%)となっている。しかし、最近では議会と行政の同時導入が増加している。
- ・iPadは信頼性が高く、運用実績があり採用率90%を超えており、議会ではアップ

ルペンシルでメモも記入できることから iPad Pro が最適。

- ・行政側では業務に合わせ端末を選び、首長や幹部職員は iPad、それ以外の職員は PC といった区分がおすすめ。

- ・特に議会では、LTE モデルのタブレットの採用率が 90%を超えている。Wi-Fi 環境がなくても LTE 通信だけで議会開催が可能。また、活動範囲が広がり活用度向上のカギとなるとともに日常や災害時を問わず、連絡ツールとして非常に強力。LTE とは対象に「Wi-Fi」だけでは活用度が極端に低下する。

- ・Wi-Fi 整備は必須ではなく「議場内の Wi-Fi 整備率」は 40%前後(2018.10 調査)で比較的大きな予算がかかることから、将来の新庁舎整備まで先送りしている自治体が多い。

- ・従来の電話と FAX での連絡業務を「チャットアプリ」へ置き換えが進んでいる。これは確実に連絡が届き送信後既読/未読を確認できるので便利。代表的なものとして LINE WORKS がある。

- ・検討委員会の発足・議会タブレット運用基準の制定・タブレット維持費等の負担割合の検討が必要。

- ・タブレットで扱う文書の種類は、会議資料のほか、議会図書(議案書・行政計画・広報誌・例規集・会議録など)を登録すれば、タブレットは持ち運べる図書館となる。

- ・タブレットで大量の資料を閲覧できるようになれば、連動して印刷枚数が減少する。

タブレット導入の効果

(1) 議員活動で「すべての資料が入ったタブレット」を活用することにより、地域住民とのコミュニケーションの潤滑油になり、行政・議会活動への理解を得られやすいと好評である。

(2) 文書をデジタル化する最大のメリットは「検索」できることで議会や行政では特に大きな効果がある。

(3) ペーパーレス化による副次効果として、時短効果による残業時間の減少など、業務効率化に大きな効果があり、直接経費の削減にもつながった。

◎業務の効率化

- ・印刷業務がなくなる
- ・修正や差し替えに即座に対応できる
- ・機密資料のシュレッダー処理がなくなる

◎コスト削減

- ・用紙代、印刷費、コピー機の維持、ゴミ処理など直接経費が削減される
- ・印刷、配布、修正等々・・・もろもろの人件費・時間・コストが削減できる

(4)災害時の連絡手段としてタブレットによる非常時の情報共有ができる

◎考察

各地から約40名の議員・議会事務局職員が参加していた。

埼玉県飯能市では2016.4月議会・行政同時にSideBooksクラウド本棚を導入有効的に利用されているとの説明であった。

導入に至るまでには年長議員よりいろいろと抵抗があったものの、合意形成のポイントとして**全議員参加対象**で参加しなかった場合は**文句言わない**という方針で導入することができた。と休憩時間に裏話が聞けた。

どこの自治体議会でも新しいことを導入する場合は議員経験が長く高齢者による抵抗があるものと痛感した。

なお、議場内へタブレットを持ち込むことが可能であり、タブレットで検索などして提案説明等を聞いていないことはないか。ということも聞いたが事例はあり議員個々の問題であるとのこと。

議会・行政理解のもと同時に導入できたこと。フォルダー構成が5階層と充実しており検索が容易であるとともに、近年はタブレットに直接書き込みができる専用のペンでメモ書き込みやアンダーラインを引くなどができるので活用方法がひろがり便利になった。

また、今後は5Gの普及によりあらゆる分野においてさまざまな取り組みが研究され自治体が運営する病院での自動化（RPA）の導入に興味を持てた。

まだまだ先のことと思うがタブレットの導入に際してはどこへでも持って行けるLTE通信は必須であると痛感した。